

**今日の焦点****カグラベーパーテック、田中常務が新社長就任****「チーム経営」掲げ取引先に愛され温かみある会社目指す**

カグラベーパーテック（本社・兵庫県尼崎市）は5月31日、田中恵里砂常務が社長に就任し、玉井健一社長が代表権を持つ会長に就くトップ人事を敷いた。6月17日の会見で①経営体質の見直し②ダイバーシティ③グローバル化④DX⑤社員交流——の方針を発表。田中社長は「チャレンジを続け、取引先に愛され温かみのある笑顔が絶えない会社を目指す」と抱負を述べ、トップダウンではなく社員とも意見を交わして会社を運営する「チーム経営」を掲げた。



新たに就任した田中恵里砂社長（右）と玉井健一会長

玉井会長は「今回の社長交代は当社にとって『第3の創業』ととらえている」とあいさつ。「一度目は創業者で父の玉井薫が1958年に行った会社の設立で、2回目は99年に私が社長就任時に行った事業再編だ。プラントからベーパーライザー中心の事業展開にシフトしたが改革には気力と体力が必要だった。今から思えば若かったからできたことだと思う。今は100年に一度の変革期で課題が山積している。新たな価値観を作ることができる若い経営者に道を譲ることが最善と考えた」と語った。「当社は創業66周年を迎えた。100年企業を目指すためLPガス事業が好調なうちに新事業の構築が必要。田中社長には大輪の花を咲かせてほしい。私は今後も会長として相談を受けた際にはアドバイスをしたいと考えている。加えて、会社の歴史を伝える語り部として若い社員に自分たちのルーツをしっかりと理解させる役割を果たしたい」と話した。

田中社長は「初めて生え抜き社員が社長となった。時代変化とともに当社の役割、社員のライフスタイルも変わった。先輩が築いた文化を大事に新しいカグラを作りたい」と所信を表明した。72年2月29日神戸市生まれ、高校時代の簿記取得が仕事の礎という田中社長は93年に入社。管理部で実績を重ね、同社初の育休を取得。03年に女性初の管理職、10年に中国の現地法人、神楽燃気設備（上海）の董事を歴任。16年女性初の取締役役に就いた。

同社は営業面で非常用発電機の提案を進め、簡易スタンドは需要増を踏まえT&Dリースと連携も模索。アンモニア事業の拡大に注力し水素も視野に入れる。アフリカではLPガスで現地の人々の環境や健康問題に貢献。水素水事業で富裕層を中心に欧米や中東で拡販。育休取得や女性管理職登用を進め男女平等の職場を追求する。